



- 1 羅針盤 「百聞は一見に如かず」の続き
- 3 発売一周年でますます好評
- 5 調査の確かさに定評
- 7 まさにこの季節の主演
- 8 木材劣化診断士の最も忙しい季節
- 9 換気を考える

「百聞は一見に如かず」の続き



奥深い故事成語

「百聞は一見に如かず」は「百回も聞くより、1回でも見る方がよくわかる」という意味のことわざです。

漢書『趙充国伝』の「必ず自分の目で敵地の状況を確認し、戦略を立てなければいけない」という話が由来となっています。

そして、この「百聞は一見に如かず」には続きがあるのです。その続きがあることを、恥ずかしながらこの歳になるまで知りませんでした。

しかし、社員の幸福度を上げる CHO (チーフ・ハピネス・オフィサー) の私にとって、思いっきり腑に落ちたので、ここにご紹介いたします。

それは、「**百聞は一見に如かず。百見は一考に如かず。百考は一行に如かず。百行は一果(効)に如かず。百果(効)は一幸に如かず。百幸は一皇に如かず**」というものです。

その意味は、以下のようなものです。

百聞は一見に如かずは、「聞くことよりも、実際に見ることのほうが効果的」

百見は一考に如かずは、「何回も見るだけでなく、必ず考えないといけない」

百考は一行に如かずは、「考えてばかりではダメで、実際に行動しなければならない」

百行は一果(効)に如かずは、「どんな行動にも、必ず成果が要求される」

百果(効)は一幸に如かずは、「あげた成果は、必ず幸せをもたらすものでなければなら

ない」

百幸は一皇に如かずは、「自分だけでなく、万人の幸せを考えなければならない」

どれも、成程とうなずきますよね。

そして、これを仕事に置き換えて考えると、以下のように、解釈できると思います。

百聞は一見に如かずは、まさに、何事においても、現場を重視して、物事を把握しなければならないことを指摘していると思います。

あらゆる仕事の答えは現場にあり、その確認は仕事の基本中の基本なのです。

百見は一考に如かずは、物事はただ確認しただけではダメで、その事実に基づいて、自分の頭をフル回転させ、いろいろな知恵を絞り出さなければならないことを意味しています。知恵を絞り出すことは、自分を成長させる第一歩なのです。

百考は一行に如かずは、まさに知行合一の実現なのです。もちろん、冷静に客観的に考えを巡らせることは大事ですが、考えるだけで行動しなければ、それはただの評論家の言葉で終わってしまうのです。

百行は一果(効)に如かずは、仕事においては、言うまでもなく結果が求められることを示しています。その結果に結びつくような努力をしなければ意味がないのです。特に、努力の方向を間違えると、無駄な努力に終わることが多いのです。

百果(効)は一幸に如かずは、仕事の根本を示した言葉と言えます。仕事は、幸せになるために行われることを忘れてはいけません。仕事をして、経済的な満足を得られず、自己実現も果たすことが出来なければ、意味がないのです。

百幸は一皇に如かずは、仕事による社会性の確保を表した言葉です。

そもそも仕事というのは、自分だけでなく、世の中のすべての人に幸せをもたらすために行われているのです。施工業者がより良い住まいづくりに邁進するのは、そこに住まう人が幸せに過ごせる環境を提供するためなのです。

まさに、本当に奥の深い故事成語だと思います。

特に、最後の「百幸は一皇に如かず」は、自分ひとりの幸せだけでなく、他の人の幸せを考えなければいけないという、人として求められるべき姿勢を示しており、大いなる教訓になっていると思います。

そして、我が社の事業目的である「自他共の幸福実現」に相応しい実践学であると捉え、これまで以上に、指針教訓として実践活用していきたいと思います。

発売一周年でますます好評 スカイコートW 水系ウレタン樹脂**タイル仕上げの魅力を生かす**

昨年より躍進がご案内している、強靱で柔軟な被膜を形成するタイル張り面の透明外壁防水材『スカイコートW』が、発売一周年を迎えました。ますますご好評をいただいております、ご注文、問い合わせが多く寄せられています。

透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした、1液型外壁用透明防水材です。透明な塗膜なので、タイル仕上げの意匠性をそのままに、雨水の侵入を防ぐことができます。

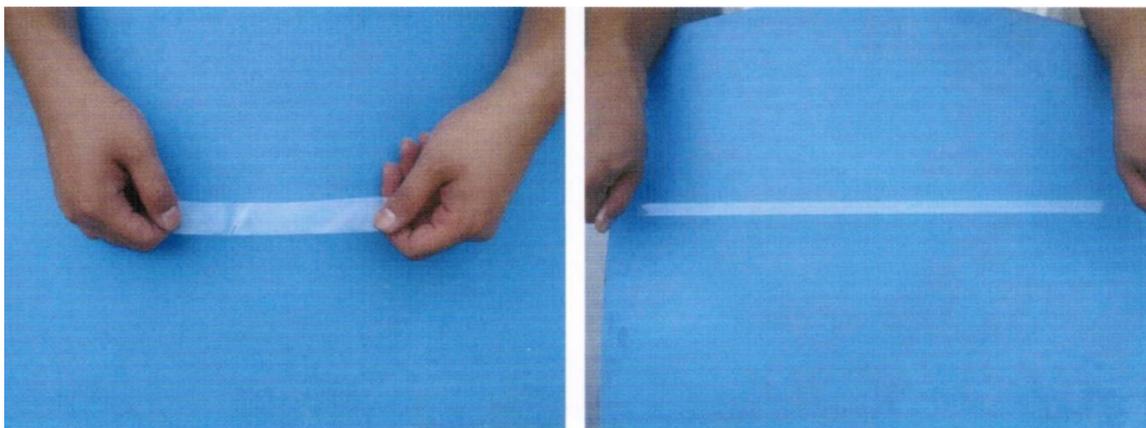
**オール水系**

プライマーを含め、すべての構成材料は水系であり、危険物を一切含んでいないため、引火や中毒の危険がなく、居住者・作業員・環境にやさしい材料といえます。

抜群の高性能被膜

ウレタン樹脂の特性を生かし、強靱で柔軟な被膜を形成し、驚異的なひび割れ追従性(20mm以上)、抗張積(2670N/mm)を備えています(下写真参照)。

また、専用プライマーにより、磁器タイルのような吸い込みの少ない下地へも強固に接着し、タイルの剥落の予防に寄与します。



優れた施工性

すべての構成材料は、1液型のため煩雑な混合作業は必要ありません。壁面施工でもダレ難く、適度なレベリング性により、フラットな仕上がりになります。

防カビ・防藻機能

防カビ・防藻機能を付与しており、不快なカビや藻の発生を抑制します。

施工仕様

工程	使用材料	塗布量(kg/m ²)	塗布回数	塗布間隔(目安)	塗装方法	
1	プライマー	スカイコートWプライマー	0.1~0.2	1	春秋 約2時間 夏 約2時間 冬 約3時間	ローラー
2	防水層①	スカイコートW防水材	0.2~0.3	1	春秋 約3時間 夏 約3時間 冬 約5時間	刷毛、ローラー
3	防水層②	スカイコートW防水材	0.2~0.3	1	春秋 約3時間 夏 約3時間 冬 約5時間	刷毛、ローラー
4	トップコート	スカイコートWトップ	0.1~0.2	1~2	—	刷毛、ローラー

高い防水性に加えて、意匠性の確保や、施工性の高さなど、各方面で多大な評価をいただいております。

『スカイコートW』のご注文、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

調査の確かさに定評

梅雨をはじめ、本格的な雨の季節が訪れました。そこで、より注目されるのが、雨漏り調査です。

もし雨漏りの疑いがあるのなら、サーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』で、必ず調査を実施してください。

散水調査と水張り調査

雨漏りの調査には、一般的に、散水調査と水張り調査があります。

散水調査とは、雨漏りが発生していると思われる箇所に、雨降りの時と同じ状態となるように水を撒き、意図的に雨漏りをさせ、原因を確認する方法です。

また、水張り調査とは、陸屋根の場合に、屋上に水を張って、その水の漏れを確認する調査方法です。

しかし、原因の特定は、熟練したプロですら難しいものです。原因が特定される保証が無いのです。すぐに漏水箇所を発見でき、簡単な処置によって修繕できるケースもあれば、調査を繰り返して、やっと発見できる場合もあります。

原因が特定できなければ、外壁、屋根、防水等の全体改修を実施しなければなりません。それではコストも時間も、かかりすぎてしまうのです。

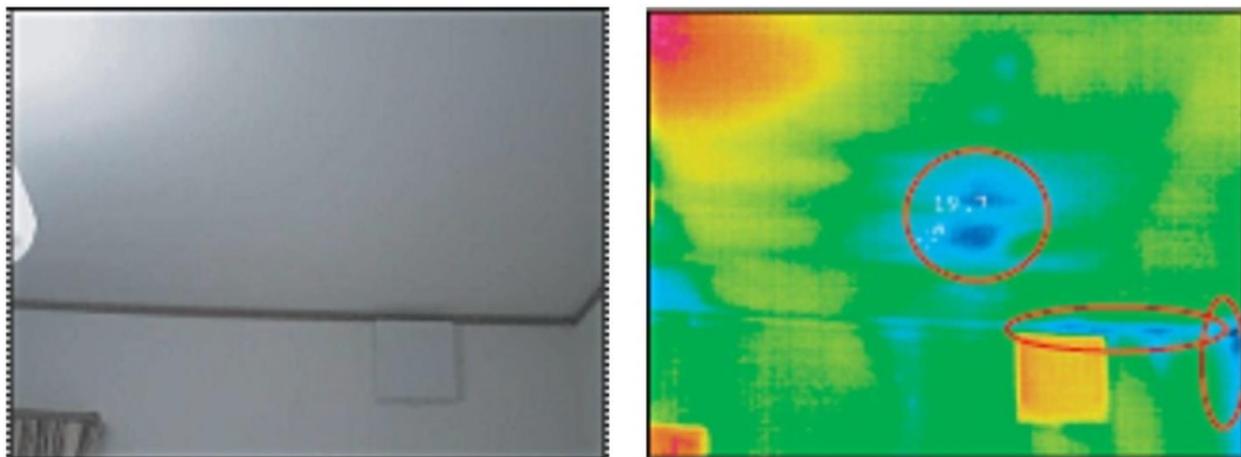
赤外線利用ならではの調査精度を確保する

専門の調査会社が、調査・補修をくりかえしていながらも、一向に雨漏り被害が改善されないという、そんな悩みを一気に解決したのが、サーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』です。

赤外線は、温度を持つすべての物体から、その温度に応じた波長分布によって、自然に放射されます。その波長分布を、色画像として示し、様々な状態を分析する装置がサーモグラフィです。そのため、今まで発見できなかった雨漏りの侵入口も、明確に特定することができます。

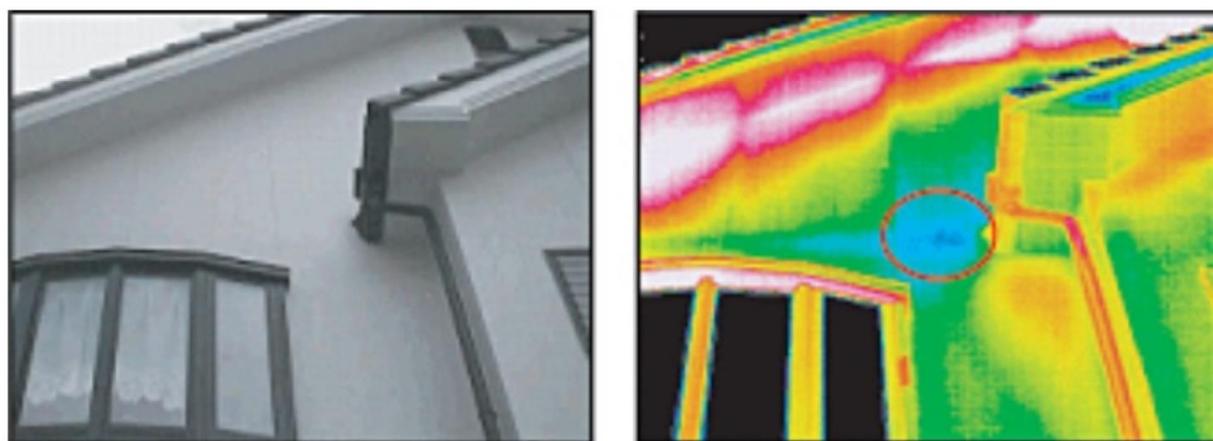
サーモグラフィの特徴は、広い面積を同時に捉えることができるため、モニター上に映し出される温度の相対比較を、ひと目で分析できます。

また、サーモグラフィは、対象物から離れて温度測定ができるため、動いているものや、近づくことができない危険なものでも、簡単に温度計測・分析することができます。



例えば、**上の2枚の写真**は、天井の一部と天井と壁の間が漏水している写真です。サーモグラフィ上では、部屋全体の温度は、緑色で表示されています。

そして、暖房などで室内が暖まると赤色に変化します。しかし、**漏水箇所は水色で表示される**のです。サーモグラフィ上では、丸で囲った部分には、水色を乗り越えて、濃い青色が示されており、ここが漏水箇所であることが分かります。



また、**上の2枚の写真**は、外壁に放水後、表面が乾いてから、サーモグラフィで計測したものです。下屋の雨どい脇に、赤外線画像では濃い青色が示され、その部分に水が蓄積していることが確認できるのです。

まさに、『赤外線漏水調査システム』は、熟練のプロの技を確かなものにする最高のアイテムといえます。

雨漏り調査・修繕にかかるコスト・時間を、合理的に縮小・短縮できるのが『赤外線漏水調査システム』です。まさに、調査の確かさに確固たる定評のある雨漏り調査システムなのです。

ご依頼、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

まさにこの季節の主役「足場パック」の目玉商品

躍進では、現在、リフォーム総合提案「足場パック」のサマー・キャンペーンを開催中です。床下点検からはじまる住まいの健康確保に、全力で取り組んでいます。

そして、その目玉商品が『飛驒炭 床下調湿材』『カーボエース』『床下用攪拌・換気システム』の「床下3点セット」(下写真参照)です。

セラミック炭から作られた脱臭調湿材『飛驒炭 床下調湿材』は、床下に1坪あたり約12袋敷つめるだけで、床下の湿気をコントロールします。底面をフィルム加工してありますので、地面からの湿気もシャットアウトします。

同じく、セラミック炭から作られた土壌改良材『カーボエース』は、保肥性、保水性に優れ、病害虫の発生を抑制します。また、土中から放出されるガスを吸着するほか、pH調整機能、土中有効微生物の繁殖促進効果もあります。

『床下用攪拌・換気システム』は、中央部設置によるダイレクト換気(新方式)により、1台で20坪までの床下をカバーします。これは、従来の床下換気扇3台分に相当します。

換気と攪拌機能を同時に搭載した高効率換気システムであり、床下中央部の高湿エリアをダイレクトに攪拌換気します。これにより、布基礎や基礎パッキン工法、基礎断熱工法等、あらゆる構造の床下に設置可能です。

「床下3点セット」のご注文、お問い合わせは躍進までお気軽に。



木材劣化診断士の最も忙しい季節

床下点検に多くの実績がある躍進には現在、4人の**木材劣化診断士**がおります(写真参照)。これまでに多くの実績を重ね、現在、最も忙しい季節を迎えています。



木材劣化診断士は、木材の生物劣化(腐朽と虫害)の診断技術の専門家です。外構の中心となる木質構造物の生物劣化の現況を診断する様々な能力を有しています。また、補修や修理に関する助言、改修や維持管理に関する助言を行うことができます。

木材劣化診断士が習得した診断技術は、住宅などの劣化診断にも適用可能です。住宅と外構の劣化のポイントをおさえ、木材とその劣化、構造別の劣化の特徴を把握しています。

そんな躍進の木材劣化診断士は、「**お客さま第一主義**」を徹底しております。

すべての仕事は、まずお客さまありきです。何事も、お客さまからスタートしなければならないのです。

まさに、「お客さま第一主義」こそ、木材劣化診断士の原点と心得ております。

常に、お客さまの立場に立って、物事を考えます。

そして、お客さまのニーズを掴み、それにすばやく的確に応えることが躍進の使命・責務と考えております。

「地域のホームドクター」としてフル回転

また、躍進の木材劣化診断士は、「**地域のホームドクター**」として活躍中です。

躍進は「地域のホームドクター」として、地元を中心に、多くの皆さまの暮らしを見つめてまいりました。

幸せなホームを実現するには、その入れ物であるハウス(住宅)が健全でなければなりません。そして、肝心なのは、治療だけでなく、「**住まいの予防医学**」を実践することです。

その中でも、床下点検は、「住まいの予防医学」を実践する「地域のホームドクター」である躍進のまさに背骨ともいえる部分です。

シロアリや腐朽菌によって、食害・侵食された家屋の耐久性は、著しく低下します。耐震強度も下落し、新築当初の性能は保証できません。もし大きな地震等に遭い、家が傾くほどの損傷を受けた場合、その資産価値はゼロになってしまうのです。

そのため、床下点検を行い、土台や束などの木材の状態をチェックし、適切な処置を施さなくてはなりません。

その最前線で活躍しているのが、躍進の木材劣化診断士であり、「地域のホームドクター」としての役割を果たしているのです。

床下点検は、前述の通り、まず土台や束などの木材の状態をチェックします。

点検で蟻害や羽蟻の発生を確認するのですが、浴室などの水周りだけでなく、玄関にも羽蟻が発生しやすく、見落としがちになってしまいます。

こうした点を満遍なくチェックするのが、「地域のホームドクター」なのです。そして、「住まいの予防医学」の実践に邁進し、「地域のホームドクター」として、まさにフル回転の活躍をしています。

床下点検からはじまる「家の安心・安全」は、「お客さま第一主義」の躍進におまかせを。ご依頼、ご相談などお気軽にご連絡ください。

換気を考える 住宅コラム

既報 218号で、高気密高断熱住宅は、新型コロナウイルスとの共存と、その感染予防を考えると、これまで以上にハイレベルな換気機能に加え、それに見合った十分な熱交換機能も不可欠であることを述べました。

そして、これは高気密高断熱住宅に限ったことではありません。すべての住宅において、換気に対する意識は高まる一方であり、まさに喫緊の課題なのです。

これに関連して、旭化成建材株式会社（東京・千代田区）快適空間研究所は、このたび「住宅内の空気・換気に関する意識と実態」調査を実施し、その結果を発表しました。

調査時期は、2021年3月5日から同9日で、全国22都道府県に住まう30～60歳男女（持家戸建住宅居住者、持家・賃貸マンション居住者）が対象となりました（回答者数1752名）。

その結果、冬の室内環境で、最も大切にしていることとして、「室内の空気のきれいさ」が26.2%となり、「室内の温度を暖かく保つこと」について2番目に高くなっています。

さらに、このコロナ禍のなか、自宅の室内の空気のきれいさへの関心が高まった割合(「とても高まった」「どちらかといえば高まった」合計)は54.9%で、同様に「室内の換気」については57.0%でした。

しかし、その一方で、換気に関する知識や情報については、「積極的に知識や情報を収集した」が7.6%で、「少し知識や情報を収集した」と合わせても43.0%に留まりました。

そして、「あなたの家では換気ができていると思いますか」と聞いたところ、「換気ができていると思っていない」と回答した人の割合(「どちらともいえない」「あまりできていない」「全然できていない」「よくわからない」と思う合計)は50.8%に上りました。

さらに、24時間換気システムを利用していると回答した割合は、築10年以内の住宅に住んでいる人で63.4%になりました。つまり、自宅の換気システムについて把握していない方が4割近くいることとなります。

20年以上前に、いわゆる「シックハウス症候群」が社会問題となり、その対策として、2003年7月以降着工の住宅には、原則24時間換気システムが設置されています。

しかし、高気密高断熱住宅における計画換気システムを利用している人以外のなかには、「電気代がもったいない」などの理由で、換気扇のスイッチを切ってしまう人もおり、24時間換気が実行されていない住宅に住んでいる人も多くいるのです。

やはり、前述のように、一般の方々においては、換気に関する知識や情報が不足しているという事実があります。工務店、ビルダーをはじめ、住宅関連事業に携わるすべての関係者は、こうした方々に対して、コロナ禍における換気対策として、正しい知識・情報の啓蒙活動に努めなければなりません。

そして、それは、安心安全な住空間を提供する立場において、最も果たさなければならない義務であることを肝に銘じ、より一層の努力をして、お客さまの幸せな住まいづくりの実現に向けて邁進していきましょう。

<p>株式会社 躍進</p> <p>本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615</p> <p>東京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542</p> <p>URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com</p>	<p>関連会社 不動産事業 株式会社 ヤクシンジャパン</p> <p>関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ</p>	<p>事業内容</p> <p>防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、 ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、 ピンニング、シングル葺き</p> <p>木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除 及び予防、調湿剤、床下換気 等</p> <p>塗装工事：各種塗装</p> <p>外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、 外壁 等診断</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------